

第 69 回 卒 業 式



3月1日(木)芸北文化ホールにおいて、多くの御来賓や地域の方に御列席頂き第69回卒業式を挙行することができました。3年間芸北の地で育てていただいた22名の卒業生が旅立ちました。これまでお世話になった全ての方へ感謝の気持ちを込めて、これまでで最高の「芸北の空」を全校生徒で合唱しました。

<卒業生22名>後列左より

吉村亮 横山航汰 山本蒼太 山崎友意 麦尾純弥 藤本諒平
藤本惇平 波津見一星 西村美華 友田光希 東門エリキ 竹本慎平 迫田美咲季 河野司
栗田啓吾 川口ほなみ 小田信也 伊屋ヶ迫昂明 今田夢乃 井上修勝 石川望 尼子智也



卒業生代表
「答辞」



卒業証書授与



在校生代表
「送辞」



「芸北の空」合唱

芸北教育

芸 北 分 校
広島県立加計高等学校

278号

平成 30 年
~3月~

全国から入学できます！
女子下宿、男子寮完備。町より月一万円
の補助制度あり。見学随時可能。
(電話)〇八二六・三五・〇七二六

卒業生最後のHR

卒業式を終えた22名が最後の時間を迎えた。思い出がいつぱい詰まった教室で、大好きな仲間といつも見守ってくれた保護者の前で、森先生から卒業証書を授与された。卒業証書だけでは伝えきれない「想い」が共有された瞬間。おめでとうございませう。



三年生を送る会

卒業式前日、芸北文化ホールで、恒例の三年生を送る会を開催しました。先輩方の背中を一生懸命追い続けた後輩たちが最後に「楽しいひと時」を過ごし



てもらおうと心をこめて準備しました。

開会式に続きバンド

同好会の演奏でスタート。全校生徒が一体となつて盛り上げ、会場が一気にヒートアップしました。

続いて1年生によるダンスパフォーマンス&コメント、1年間で先輩から受け継いだ「80・20の精神」も定着し、成長した姿を披露できました。



2年生は、クオリティの高い企画・構成を披露した。更には、個々の独特の世界観まで発揮した演技で会場を盛り上げました。

その後、先生方から卒業生一人一人に心のこもったメッセージが送られ『ほっこり』とした空気が会場を包みみました。



最後は、担任の**森先生**が「高校3年生」を熱唱。続いて保護者のメッセージ



が届けられたムービーでは会場の涙を誘いました。

ファイナーレでは3年生一人一人が後輩へのメッセージと卒業後の決意を述べました。その表情は芸北分校で学んだ充実感に満ち溢れていました。



担任 森 先生

雄学館退寮式

2月28日雄学館で3年間過ごした卒業生の内の4名を迎えて退寮式を行いました。

広島市・竹原市・福山市等から不安を抱えながら入寮して、様々な経験を通して大きく成長してくれました。

雄学館生活の最後の日「同じ釜の飯を食った」後輩たちに寮生活の思い出や今後の目

標など熱い想いを語ってくれました。また、新たな伝統が引き継がれていきます。



山本君

石川君

竹本君

栗田君

雪の中の農業実習

2月初旬から中旬にかけて次々と襲ってくる最強クラスの寒波。芸北地域も近年になり2mに及ぶ積雪を記録した。そうした中、日ごろから丹精込めて育てているリンゴの木が大ピンチ。あまりの積雪に枝が折れる危険性が高まる中、

農業類型生徒がリンゴの木を傷つけないよう丁寧を除雪作業を行った。彼らの努力は「豊かな実り」となって収穫の時に多くの人の「笑顔」によって報われるだろう。



スキー部全国で活躍

第30回全国高等学校選抜スキー大会男子10kmクラシカルで2年生の西本ひのき君が31分12秒8の記録で全国25位と大健闘しました。

全国の壁は厚いですが上位

入賞を目標にシーズンを戦い続けています。

また、アルペン2名、クロスカントリ

ー選手5名が「新潟妙高はね馬国体」に出場し、男子クロスカントリレーでは、入賞まであと一息の全国11位と健闘しました。出場選手は全員が1・2年生。来年度は更なる躍進が期待できます。



西本君



上迫君



河野さん



国体壮行式から



宮地君



山中君

〈巻末エッセイ「げいほくらし」〉

旅立ちの時

『卒業 おめでとう』

芸北分校での3年間どうだったですか？
やり残したこと、悔いはないですか？・・・
聞くのはやめよう。晴れ晴れとした君たちの表情がすべてを物語っている。

それぞれの決意と覚悟を持って、選んだ芸北分校での高校生活。「雄大な自然」と「ほっこりとする地域のサポート」を受けながら、日々逞しく成長していく君たちの姿を特等席で見させていただき、多くの感動をもらいました。

人生において、青春という貴重なページに立ち会えることは教師の仕事にとって何事にも代えがたいものです。

10年後？20年後？ 芸北分校の卒業アルバムをめくりながら、まだ見ぬ孫に自慢話をする日が来るのが楽しみです。

(のボール小僧)